

シンナガサキミーティング開催レポート

i n 北陽小学校区



令和6年5月28日（火）、自治会やコミュニティ連絡協議会、地元中学生、育友会、民生児童委員など13人の皆さんにお集まりいただき、北陽小学校区の「シンナガサキミーティング」を開催しました。

自己紹介では、それぞれの立場で地域のために行っている活動や地域コミュニティ連絡協議会を中心としたまちづくり活動、地域で暮らしていく中で感じていることなどをお話いただきました。



いただいたご意見

①地域コミュニティ連絡協議会の取組みについて

地域コミュニティ連絡協議会のしくみを、長く続けてほしい。人と人とのかかわりが希薄になっている中で、地域の中で接点を設けていく機会になっていると思う。

市の考え方

地域コミュニティ連絡協議会は、幅広い世代、地域の役割をいろんな形で担っている人たちの集まるプラットフォームとして、大きい存在と考えています。

回答

今後も、地域コミュニティ連絡協議会がさらに活性化するように取組みを進めるとともに、その役割についての広報を行い、地域の皆さんの理解を深めていきたいと考えています。



②不登校児童生徒への支援の取組みについて

不登校が増えているので、不登校の子どもの居場所や、その保護者が集まるような場づくりができないか。また、そのために学校の空き教室を活用することはできないか。

市の考え方
回答

長崎市立小・中学校の不登校児童生徒数はこの5年間で約2倍に増加しており、喫緊の課題となっています。

そういった状況に対応し、不登校児童生徒の多様な学びの場を確保するため、学びの支援センター「ひかり」の運営や、フリースクール等民間施設との積極的な連携を行っています。

さらに、新たな取組みとしてメタバース登校や校内別室支援員の増員を進めており、誰一人取り残さない不登校対策を推進していくため、「学びの多様化学校」の開設に向けた準備も進めています。

また、不登校の子どもを持つ保護者が集まる場所として空き教室を使用したい場合は、学校に相談いただければと思います。

●こんな嬉しいやりとりもありました！

中学校の生徒がボランティアをしたり、祭りの運営をするなど、もっと北陽のまちづくりに関わっていきたいです！！



いいお話をいただきました(^)。
今後は中学生と連携して祭りを盛り上げていきたいですね

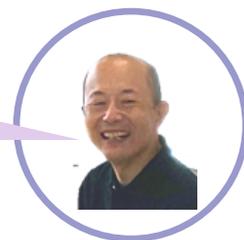
そのほか、「少子高齢化で民生委員の負担が大きくなってきている。担い手も不足してきている」、「若い世代が住みたくなるようなまちづくりをしていくことが大切」、「交通アクセスの向上や交通費の負担軽減などを考えてほしい」などのご意見をいただきました。

いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。

鈴木市長のひと言

これから地域をどう元気にしていくかについて、若い方からも活発に意見を出していただき、楽しい会となりました。

北陽小学校区は自分たちの地域は自分たちで何とかしようという意識が強く、やる気も満ち溢れており、すごく希望の持てる将来が明るい地域だと思いました。



参加者からの感想

魅力ある住みたいまちの活性化につなげるため、地域コミュニティの継続を希望します！

中学生が活発で、若い世代の発言、発見が良かった。「地域全体で痛み分けしながら地域の活性化に努める」ということは、参考になりました。

市長が全部の質問にきちんと答えてくれていてすごいなあと思いました。

いろいろ思ったり希望したことを楽しい雰囲気、で、ざっくばらんに聞くことができてよかった。

